

藤波こども園

園長だより No. 63 令和2年10月2日 文責 竹原 篤



旧 藤波幼稚園 現 藤波こども園

子どもたちの思いを中心に笑顔いっぱい楽しんだ運動会！9月26日(土)に令和2年度運動会を開催しました。今年度の運動会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、種目内容や参観人数など多くの制限があり半日の開催となりました。そのため例年のようにこども園が日頃の活動から大切にしているホームの活動(異年齢による縦割り活動)ができず、花・星・月組と分散型の運動会になりました。運動会に向けての取り組みの期間に月組がやっていることに憧れ「やってみたい」と気持ちが動き、同じようにやってみようとする星・花組の姿がたくさんありました。入場行進をしている月組のもとに「何してるの」と星・花組が寄ってきて「やりたい」と言い、「一緒にしよう」と快く受け入れてくれた月組。嬉しそうに楽しむ星・花組。月組が張り切って取り組むカッコいい姿から、僕らも運動会がやりたいという気持ちが園全体にどんどん広がっていき、子どもたちが育ち合っていると感じました。保護者の皆様にはこども園の運動会を理解していただき、多くの方々からご声援と励ましのお言葉を頂戴しました。園長としてコロナ禍の中でも子どもたちの思いを取り入れた内容の運動会が実施できたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

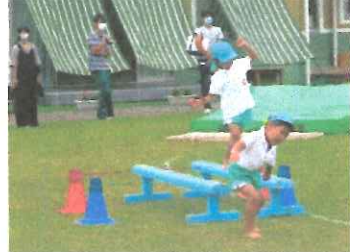
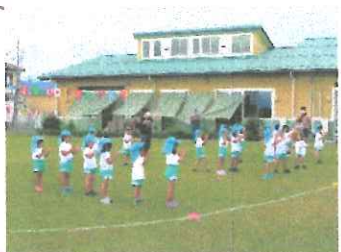


花組・星組・月組の担任より

花組 花組さんにとって初めての運動会でした。初めは本部前に集合し、みんなでミッキー体操。日頃から大きいお兄ちゃんたちの体操を見て、見様見まねでやってきた花組さん。いつの間にか、音楽を覚え口ずさみながら体操をしている姿がありました。かけっこでは、1人ずつ名前を呼ばれると手を上げ返事をし、ゴール目指してうれしそうに走る姿がありました。今は直線ですが、来年はぐるっと1周走れるかな？こぶたランドでは、くぐったり踏んだりしながら親子で一緒に楽しみました。スタート位置では、「抱っこがいい？おんぶ？肩車？」「抱っこ♡」という会話も聞こえ、とても温かい気持ちになりました。おうちの人と一緒にいつも以上にはりきっている姿や安心して楽しんでいる姿に会場が温かく和やかな雰囲気に包まれました。



星組 運動会が終わってからおうちで子どもたちとどのようなお話をされたでしょうか。いつもとは違う雰囲気に緊張している様子も見られましたが、当日までの活動も含め、勇気を出して、精一杯頑張っていた子どもたちをたくさん認め、褒めてくださったことと思います。今年度の運動会は例年のような開催はできませんでしたが、取り組みの姿から見ていると星組さんの目線の先には、いつも月組さんがいました。「私もリレーしたい」「組体操したい」と憧れの思いを持って過ごしてきました。どのような状況でも子どもたちの意欲的な気持ちや憧れの気持ちは変わらずに受け継がれていくのだなと感じました。



月組 例年通りにはできない中での開催でしたが、「やりたい！」という強い気持ちで子どもたちが意見を出し合い、考え、工夫し、創り上げてくれた運動会。その気持ちをおうちの方も感じ取り、ひとり一人を温かく見守り応援して下さったおかげで、緊張するであろう当日も、月組さんらしく全力で楽しめていたように思います、あきらめず何度も何度も挑戦しようとする姿、お友だちの頑張りに気付き一生懸命声援を送ってくれる姿、ドキドキしているお友だちに寄り添ったり一緒にしようとしてくれる姿等から月組さんの強く優しく温かい気持ちをたくさん感じた運動会でした。心を通わせ、気持ちを一つに運動会を楽しんでくれた月組さんに胸が熱くなりました。



🌸ありがとうございます🌸

【いただきました】

絵本 今津町 業者様より

花・星・月組には運動会のご褒美として閉会式で担任からひとり一人に渡らせていただきました。

桃・雪組にはお部屋で担任より渡らせていただきました。



旧藤波幼稚園のこと

上小川交差点の一角にある旧藤波幼稚園。

この9月から小学生が園庭でにぎやかに遊ぶ姿が見られます。

聞くと、学童保育所として活用され、NPO法人子育て・子育てサポートきらきらクラブが運営する第6学童保育所「てぶくろ」だそうです。

新しく藤波こども園ができた際に、旧藤波幼稚園の園舎と敷地は、市に寄贈しました。旧藤波幼稚園は、教育施設として使用する必要があったため、市は高島市教育支援センター「スマイル」(学校に行きたくても行けない子どもたちのための施設)として活用していただきました。

上小川にお住まいの方はご存じかと思いますが、旧藤波幼稚園の敷地には、以前中江藤樹先生について学ぶ方々の研修宿泊施設がありました。その土地は、上小川の有志の方々が大切な農地を提供されたもので、上小川の住民が鴨川から一輪車で土を運び造成されたと聞いています。

その敷地と施設が農繁期の家庭の幼児を保育するという目的で、藤波幼稚園に受け継がれました。現在の建物は2代目に当たります。

年月は過ぎましたが、その時代の要請に応じて、形を変え内容を変えて、それでも地域の子どもたちのために有効に使われていくことに感謝し、子どもたちが健やかに育つように願っています。

